

同盟加盟小学校・中学校・高等学校のアンケート（まとめ）

4月末までに同盟事務局に寄せられた新型コロナウイルス対応の各校アンケートの集計に続き、その後に事務局に寄せられたアンケートのまとめです。

2020年5月6日現在

特定警戒地域からの回答数 9校、それ以外からの回答 5校

特定警戒都道府県の小学校・中学校・高等学校対応

緊急事態宣言（4月7日）前の対応

13の特定警戒都道府県にある学校は、この期間に各自治体要請に従い4月上旬まで休校とした学校、さらに5月6日の連休明けまでの休校決定をした学校がある。卒業式、入学式の中止あるいは延期をした。私立学校に対する要請は各校が独自に判断することが委ねられ困難がました。多くの学校がオンライン授業の準備をした。

緊急事態宣言後の対応と教育上の課題

臨時休校を延長して政府の要請に従い5月6日とし、その後は状況により延期としている。年間行事を含め学習指導計画の大幅な変更の準備をしている。

遠隔授業の成績評価、実技科目（体育、音楽など）の実施策、低学年に対しては遠隔授業対応での対応が困難など、学校校種ごとの課題が挙げられている。

今後授業料滞納者や生活困窮者が増えることへの対応、次年度の入学者減の予想、人格教育を学校行事の中や対面授業で行う場が失われたこと。また生徒の心身の状況把握ができない、長期休校により学力だけでなく学習習慣の低下の心配。

礼拝・キリスト教授業の進め方

ほとんどの学校でテキストをHPで掲載、動画配信、対面授業再開時には校内放送予定など3密を避けた形態を予定している

上記地域以外の中学校・高等学校

緊急事態宣言（4月7日）前の対応

春休みを延長し多くは休校の措置をとった。また文部科学省や県の方針をうけ公立学校の動向を参考に休業判断をした学校もある。分割登校を実施した学校もあり。

緊急事態宣言（4月7日）後の対応

臨時休業中の学習指導と遠隔授業体制の調整、生徒・教職員の感染防止、特別警戒都道府県在住の保護者宅から戻る生徒の健康経過観察などへの対応。

教育上の課題

学校歴の変更、行事内容の組み換え、生徒の精神的なケアと教職員のメンタルケア、基

本的な生活習慣の維持への対応、家庭の困窮に伴う奨学金などの対策

礼拝・キリスト教授業の進め方

チャペル礼拝は中止、校内放送等に変えている学校がほとんど。学内での会議は通常通り、学校再開後は放送や讃美歌等の割愛、休校が延長の場合には遠隔での指導を行う。

同盟加盟短期大学・大学のアンケート（まとめ）

4月末までに同盟事務局に寄せられた新型コロナウイルスのアンケートの集計に続いて、その後に事務局に届いたアンケートのまとめです。

2020年5月2日現在

特定警戒地域からの回答数 7校、それ以外からの回答 5校

特定警戒都道府県の短期大学・大学の対応

緊急事態宣言（4月7日）前の対応

13 特定警戒都道府県内の大学は年度初めの健康診断や学科ごとの指導、履修指導など年度初めの行事のほとんどを延期とし、学生への海外渡航の禁止、教授会などのオンライン実施のための準備をした。また濃厚接触者が発生した場合の対応などを整備した。

緊急事態宣言後の対応と教育上の課題

構内立ち入り禁止等を政府の要請に従い5月6日まで延ばし、それ以後も夏休みまで遠隔授業継続を前提に準備した。職員は在宅勤務を基本として、オンライン業務などの準備をおこなった。その後の宣言延長の場合には対面授業を延期予定。年間行事を含め学年歴の大幅な変更を余儀なくされた。

学生への対応、学修相談や履修相談、就職相談なども対面ではできないため、遠隔授業同様に会議システムなどを利用している。学生の生活状況や精神的なケアができていないこと、ネット環境の整っていない学生への配慮などの危惧あり。

図書館、施設の利用における許容範囲の判断が困難、寮生の退寮への方針、学納金への配慮、アルバイトができない学生、生活困窮者の施設設備費の問い合わせなどの対応。

政府、文科省の大学への通知、都道府県による具体的自粛要請内容に従い決めることになる。

礼拝・キリスト教授業の進め方

ほとんどの大学は礼拝の中止、週ごとにチャプレンによるテキスト配信、HP上への掲載、ライブ配信の予定の大学もある。キリスト教関連授業は遠隔授業。

上記地域以外の短期大学・大学

緊急事態宣言（4月7日）前の対応

入学式と新入生オリエンテーションの中止または短時間での開催、健康診断や学科イベント等は延期か中止、授業については遠隔とすることを決定。新入生への履修指導等が困難との回答が多い。遠隔授業環境の整備：機器やWifi環境など学生と教員への支援が課題。

緊急事態宣言（4月7日）後の対応

5月6日まで大学内の入構禁止とし教授会も遠隔会議、あるいはメール電子会議を実施。学生募集活動への悪影響を危惧している。消毒剤やマスク不足が次第に深刻に。連休明け（6日以降）の休校延長時の学年歴の組みなおしと遠隔授業形態の見直し。

教育上の課題

遠隔授業を円滑にするための教員のリテラシー向上が課題。実験と実習が授業内容となる科目の時期確定できない。授業時間数の確保は大丈夫か。

礼拝・キリスト教授業の進め方

感染防止を徹底すると諸行事は中止あるいはテキスト配信、人数を制限、分散して礼拝堂で実施、オンデマンドにて動画配信等、どの大学も礼拝は必修科目に関連しており授業は他科目同様遠隔授業としての扱いが多い。